

# カイゾク島の伝説の宝

## ○登場人物

伝説の海賊の孫の孫のそのまた孫・あん  
その忠実なる副長・あらた

特に名もない盗賊・さくら  
特に名もないけど過去がある盗賊・ゆづき

悪名名高い大海賊・黒ひげの手下の手下の部下・トア  
悪名名高い大海賊・黒ひげの手下の用心棒・そらぎ  
なぜかついてきた少年・ちとせ

さらわれたいお年頃の姫・みお姫  
いつもさらっている海賊・さわこ  
それに付き合っている海賊・ひいろ  
またまたそれに付き合っている海賊・かほ

## S I 大きな町の大きなお城のバルコニー

大きな町にある、大きな城の中。

そこでは、ある大事件が起こっていた。

そう、海賊たちにお城のお姫さまがさらわれようとしているのである！

みお姫 キャー！ダレカタスケテー！

大臣 姫さま！

さわこ 姫はもらっていくぞ！

ひいろ 返してほしければ、お城のお宝をゼーんぶ持つてこい！

大臣 全部！？

かほ そーよ、ぜんぶよ！

さわこ さもなければ、姫の命はないぞ！

大臣 そ、そんなあゝ！

ひいろ では、さらばだ！

みお姫 だゝれゝかゝつ！

さわ・ひい・かほ ハーッハッハッハッ！

海賊たち、みお姫を連れて行こうとして…

大臣 はい、どうもありがとうございます！

大臣がそう言ったとたん、海賊たちはみお姫をはなす。  
ただのごっこ遊びだったのだ。

大臣 姫さま、ご満足いただけましたでしょうか？  
みお姫 まあまあ。

ガクツ：

さわこ まあまあ、つてなによ。まあまあつて。  
ひいろ 失礼しちゃうわよね。  
大臣 まあまあ。

さわ・ひい・かほ (にらむ)  
大臣 あ、いや…。  
みお姫 ねえ、もう一回やつて〜！  
大臣 姫さま。さらわれごっこは一日一回までです。

今は大臣の部下にヘンソーしている盗賊たち、エラソーに、

さくら お前たち、今日もご苦労だったな。  
ゆづき 明日は「ワルい女王に閉じこめられた、かわいそうなお姫さまを、さつそうと助けに来る海賊たち！」

さくら 「はたして女王の魔の手を、のがれることができるのか!？」  
ゆづき つて感じでよろしく頼む。

さわ・ひい・かほ え〜！

大臣 姫さまはさらわれないお年ごろなんだ。頼むよ。

かほ わたしたち、カイゾクなの。  
さわこ 姫さまのおもりじゃないのよ。

さくら ……つて言ってますけど、大臣？

大臣 私も必死なんですよ。お願いしますよ！ね、ほら、金貨もこれだけ用意しましたから。

さわ・ひい・かほ わかった、やる。

ゆづき はやつ！

大臣 ありがとうございます〜！

金貨をもらって、よろこぶ海賊たち。

いつだつて海賊は、金貨に弱いものなんだ。

ひいろ ところで、いつつも気になってたんだけど…。  
かほ あれ、なに？

海賊たち、部屋のすみっこにおいてある箱を指さす。

大臣 あれですか？あれは開けちゃいけない箱です。  
さわこ 開けちゃいけない箱？

ひいろ なんで開けちゃいけないの？

大臣 開けちゃいけないからです。

かほ だから、なんで？

大臣 開けちゃいけないからです。

さわこ じゃ、なんでこんなところにおいてあるのよ。

大臣 開けちゃいけないからです。

いろいろ

もう、なにそれ！

なんて話をしている間に、ヒマだったみお姫が、なにも考えずに箱を開ける。

さくら

あの、大臣？

大臣

なんだ。

ゆづき

開けてます。

大臣

え？

さくら

だから、開けてます。

大臣

何を。

ゆづき

箱。

大臣、箱をふり返る。

箱、思いつき開いている。

みお姫が中から取り出したのは、いかにもな感じの黄金のメダル。

大臣

あー！

その時、あたりは怪しげな雰囲気にも包まれる。

トア、そらき、ちとせが出てきて、みお姫と黄金のメダルをさらっていく。

三人

つかまえたぞーっ！

大臣

なんだ、お前たちは！？

トア

オレこそは、悪名あくめい高たかい大海賊・黒ひげの手下の手下の部下、トア！

そらき

ヨージンボーのそらきだ！

ちとせ

やつちやえ、やつちやえ！

トア

…ところで、お前、だれだ？

ちとせ

？

ただ、面白そうだからついてきただけである。

さわこ

そのザコ海賊が、なんの用よ！

三人

ザコっていうな！

トア

なにも知らないなら、教えてやろう。この黄金のメダルがあれば、海賊島にねむる、

伝説の海賊の宝が手に入るのだ！

そらき

それ、ヒミツなんじゃないの？

トア

しまったーっ！

ひいろ

やつぱりザコね。

トア

とにかく！ 姫の命がおしければ、さからわないことだ。行くぞ！

みお姫

たーすーけーてー！

みお姫を連れ去る三人。

もちろん、みお姫は何が起こっているか、さっぱり理解していない。

さらわれたいお年頃なのである。

大臣

なんてことでしよう！ 姫さまが…姫さまがさらわれてしまいました…！ 絶対にさ

さくら

わってはいけなと言われた、黄金のメダルまで…。

ゆづぎ  
大臣

クビだね、クビ。  
ああ…っ！

頭をかかえる大臣。  
一方で、海賊たちはなんだかムショーに腹が立っている。

さわこ  
ひいろ  
さわこ  
ひいろ

なんかムカつく。  
ムカつくね。  
姫さまをさらうのは、私たちでしょ！  
これは、放っておくわけにはいかないわね。

海賊たち、大臣の前に行つて、

さわこ  
大臣  
ひいろ  
大臣

心配しないで。姫さまは私たちが助けるわ。  
本当ですか！？  
そのかわり、お礼はたーつぶりもらうわよ！  
それはもう、もちろんです！お城のお宝を、なんでも好きなだけ持って行つてくだ  
さい！

かほ  
さわこ  
ひいろ  
かほ  
ひいろ

でも、どうするの？  
私たち海賊島がどこにあるか、知らないのよね。  
ここは、あそこに行くしかないわね。  
あそこつて…まさか！  
海賊の町ギヤングよ。

海賊たちは、お城を出ていく。  
その後を、ヘコヘコしながらついていく大臣。  
部下たち、だれもいなくなったのを確かめて…

さわこ  
ゆづぎ  
さわこ  
ゆづぎ  
さわこ  
ゆづぎ  
さわこ  
ゆづぎ  
さわこ  
ゆづぎ  
さわこ  
ゆづぎ

行つた？  
行つたわよ。  
カンペキね？  
カンペキよ。  
あの大臣もバカよねえ。私たちが、まさか城の宝をねらう、盗賊たちとも知らず…。  
でもビックリしたわね。  
なにが。  
この箱。絶対お宝が入つてるんだと思つて、ずーっと開けるスキをねらつてたのに…。  
カギ、かかつてなかったもんね。  
バカだよね。  
バカだね。  
私たちもね。  
そうね。

さわこ  
ゆづぎ

…。  
ちがーう！だって、まさかそんな大事なものが、カギもかけずに置いてあるつて思  
わないでしょ？フツーよ、フツー。私たちはフツー。  
ま、そうだね。

さくら ゆづき ま、その話は海の底深くしずめといて…。それより、聞いたでしょ。  
ゆづき 海賊島に眠る、伝説の海賊の宝…。  
さくら お城の宝より、いいんじゃない？  
ゆづき どっちにつく？  
さくら そりゃ、あのザコ海賊でしょ。なんたって、メダル持ってるし。  
ゆづき あのザコなら、どうにでもできそうだしね。  
さくら あ、私、いいこと思いついちゃった。  
ゆづき うわ、絶対ワルいことだ。  
さくら ザコ海賊に取り入って、宝物を手に入れるでしょ。  
ゆづき うんうん。  
さくら ついでに姫さまを助けて城にもどって…。  
ゆづき お城のお宝ももらっちゃう！  
二人 フーウ！  
さくら じゃ、そういうことで。  
ゆづき あのザコを追いかけましょう。

二人、さっそうとお城を駆け出していく。

## S 2

### 海賊の町・そのやたらとうるさい酒場の中

場所は変わって、海賊の町ギャングの酒場。

あらっほい海賊たちが、ワーワーギャーギャーやってる、にぎやかな店だ。  
そこに、さわこ・ひいろ・かほがやって来る。

さわこ わっ、わっ、すごい！ここが海賊の町なのね！？  
ひいろ そうよ。  
かほ ねえねえ、あれ、なんだろう？  
さわこ おいしそう。食べたーい！  
ひいろ はしゃがない。トーシロに思われるでしょ。  
かほ トーシロって、なに？  
ひいろ ザコってことよ。  
さわこ それはイヤ。

すると、そこにあらたがやって来る。

あらた おうおう、なんだ、おまえたち。見ねえカオだな。ここはガキが来るところじゃないぜ。  
かほ だれ？  
ひいろ さあ？  
あらた ガキは帰ってミルクでも飲んでな。  
さわこ なによ、あんただってガキじゃない。  
あらた グサッ！…これはイタいところをつかれたな。  
みんな おいといて。

おいといた。

さわこ 私たち、人をさがしてるの。

あらた 人？  
ひろ この町に、伝説の海賊の孫の孫のそのまた孫がいるって聞いたんだけど、知ってる？  
あらた 知ってるといえば知ってるが…なんのようだ。  
さわこ 海賊島にさらわれた、お姫さまを助けに行くのよ。  
ひろ 海賊島は、伝説の海賊のアジトだったところ。その人なら、行き方を知ってるでしょ？

あらた それを聞いて、あらたは意味ありげな声で、背後に呼びかけた。  
だ、そうですが…ねえさん、どうします？

すると現れたのは、他ならぬ伝説の海賊の孫の孫のそのまた孫・あんだ。

あん そう、海賊島に行くの…。  
かほ あ、あなたは…？

さわこたちは、何となくその雰囲気にはびりつつ…

あん あらた副長。  
へい。

あん いつものおちようだい。

あらた へい。どうぞ。

さわこ あ、あれは…まさか…

あん コーヒーよ。

さわ・ひい・かほ コーヒー！？

あらた ミルクと砂糖は？

あん いらないわ。

さわ・ひい・かほ なんですって！！？

ひろ あのただニがいだけのドロ水を、そのまま！？

あんは、コーヒーをスツと飲みほして、あらたにカップを返す。

あん ありがとう。おねがいね。

あらた へい、分かりました。(その辺にいるらしき店員に) …コラア！ねえさんから、金を

取ろうってのか、あん？

ひろ オトナだわ、あの人、オトナよ。

あんはまたさつそうと二人の前に進み出てくる。

あん 私は、あん。伝説の海賊の孫の孫のそのまた孫。海賊島に行きたいって？

さわ・ひい・かほ は、はい。

あん 海賊島…それは、七つの海の最果ての島。そこより先に海はなく、一度島に入った

ものは、二度と帰ることはないという…。

さわ・ひい・かほ ゴクリ…。

あん 覚悟はいいのね？

さわ・ひい・かほ ちよつと考えようかな。

あん (聞いてない) 出発は明日の朝。陸での最後の夜かもしれないから、楽しんでおく



トア ……そうか、ありがとう。

ちとせ、満足。

トア おい、そらぎ、お前も手伝えよ。出港の準備、いっぱいあるんだよ。  
そらぎ やだ。

トア ……。

そらぎ ……。

トア なんてだよ、もう。

そらぎ オレ、ヨージンボーだから、たたかうのがしごとだ。

トア そうだけど…。

そらぎ オレ、おおボス・くろひげのてしたのヨージンボー。

トア オレ、大ボス・黒ひげの手下の手下の部下。

そらぎ ……。

トア ……。

そらぎ すいませんでした。

トア わかればよし。

そらぎ

そう言うと、そらぎはトアの肩をポンとたたいた。

トア ……なんか納得いかねー！

とまあ、身もだえするトアの前に、さくらとゆづきがやって来た。

なんか、あやしげな格好だ。

さくら・ゆづき あのー。

トア なんだ、お前ら。

見知らぬ二人の姿を見て、そらぎが向かって行く。

そらぎ 戦いだー！かかってこーい！

ちとせ やったー！

あやしい二人は、あわててトアにかけよって、

さくら いやいやいやいや、違いますぜ、ダンナ。

トア ダンナ？

ゆづき あたしら、あんたの味方ですぜ。

トア オレの？

さくら あたしの占いによると…あんた今、子供で苦労してるね？

トア おう。

ゆづき しかもだれも味方がいない。

トア おう！良く分かるな！

そらぎ 見てりや分かるでしょ。

さくら しかーし！あんたはもうすぐ、すごいお宝を手に入れる。

トア おう！

ゆづぎ　そして、世界で一番の海賊になる！

トア　おおー！本当かー？

さくら　本当ですとも。つきましては、私らもぜひ船に乗せていただいて…え？

ゆづぎ　ダンナの出世のお手伝いができれば、と思ひまして…。

トア　ほう。

さくら　あ、お給料は、だいたいこんな感じで、成功報酬が…

トア　高くねえか、これ？

ゆづぎ　世界一の海賊が、なにもみっちりこと言ってるんですか！

さくら　それじゃあ、世界一のケチ海賊になりますよ！ケチ海賊！

トア　うわ、すごいはずかしい…。

ゆづぎ　これくらい安いもんでしょ？

さくら・ゆづぎ　ね？ね？ね？

トア　あ、はい。

さくら　では、契約成立と言うことで。

三人、とてもビジネスライクに頭を下げる。

さくら・ゆづぎ・トア　よろしくお願いいたします。

で、なぜか自信満々になったトア。

トア　よーし、それじゃ、海賊島に行くぞ！

ちとせ　やったー！

トア　お前、まだついてくるの？

ちとせ　行くよ！あたりまえじゃん。

トア　わっかんないんだよなあ…。

みお姫　きゃー、さらわれるー。

トア　ハイハイ、さらってます、さらってます。

トアは、ちとせとみお姫を連れて、船の中へと入っていく。

そらぎ、そのあとについて行こうとして、盗賊たちをふり返る。

そらぎ　おい、おまえら。

さくら　はい、なんでもございましょう。

そらぎ　べつに、あいつをだますのはいいけど、オレのたたかいのジャマはするなよ。

さくら・ゆづぎ　はい…。

そらぎ、去っていく。

ゆづぎ　あの子の方が優秀…。

さくらは大きくひとつ、伸びをして…

さくら　さて、と…。バカはバカすぎて順調だったし、出発に向けて、寝るかー。

だが、ゆづぎはなぜかちよつと、考えごとをしているようだ。

さくら …どうした？  
ゆづき なんでもない。…先に行つて。後から行くから。  
さくら 夜遊びもほどほどにしなよー。  
ゆづき しないよ。

さくらもまた、船の中へと入っていく。  
そうして、ゆづきが一人、残った。

ゆづき 海賊島か…。

## S 4 海賊の町・その夜の港

夜の港では、ゆづきがぼつりと空を見ている。  
そこに、同じように浮かない顔をした、あんがやってくる。  
あんはゆづきに気づいて、

あん ……  
ゆづき あん…！

あんは、気まずそうにゆづきの前に立つ。  
そう、過去のある二人なのだ。

あん ひさしぶり。  
ゆづき ほんとにね。

……  
あんが海賊をやめるつて言つて、船を出て行つて以来。  
……そうね。

ゆづき あんは元気？まだいつしよにいるの？  
あん あいかわらず。  
ゆづき どうしてここに？ここ、海賊の町よ。

あん 質問ばかり。  
ゆづき しょうがないでしょ。  
あん そうね。

……  
あちこち旅をして…でも特に行く所も、帰る所も見つからなくて、たまたま…。そ  
したらね、頼まれたのよ。なんかヘンなのから。海賊島まで連れて行つて欲しいつ  
て。

海賊島…！？

明日、出港するつもり。

ゆづき ……  
あん ……  
ゆづき ……  
ゆづき ……

ゆづきはちよつと考えた。  
そう、きつとこれは偶然じゃないんだ。

ゆづき 私たちも、明日出航よ。  
あん 海賊島に！？

ゆうづき そう。  
あん どうして？  
ゆうづき あんが来ると思ったから。  
あん ……  
ゆうづき ……海賊島のお宝がよみがえったなら、あんは必ず来ると思ったから。

あんは答えなかった。

ゆうづき あんが海賊をやめるって言ったのも、海賊島の「何か」を知った時だった。ねえ、  
教えて。海賊島には何があるの。お宝っていったい何？

あん あそこにあるのは、お宝なんかじゃない。  
ゆうづき え？

覚悟がないなら、行かない方がいい。

あん なんの覚悟？

全てを失う覚悟よ。

そう言ったあんは、なんだかちよつと悲しそうだった。

あん 海賊島は、七つの海の最果ての島。夢の終わり。そこから先に海はなく、一度島に

入ったものは、二度と帰ることはない。

だったら、あなたははどうして行くの？

一度よみがえってしまった以上、だれかが行かないから。

だったら、私も行く。

必要ない。

でも。

今すぐ、船を下りて。

あん あんはそう言うと、去ろうとする。

その時、かくれて様子をうかがっていた、さくらが出てくる。

へえー、おもしろいじゃない。

さくら…！

さらに、そらきも出てくる。

そらき そのはなし、もつとくわしくきかせてもらおうか。

あらた ねえさん！

さらにさらに、あんをかばうように飛び出してくる、あらた。

向かい合う、あらたとそらき。

さくら 何たくらんでるか知らないけど、あんたが話さないなら、自分で勝手にたしかめる

だけよ。

やるか！？

あんは、そらきにかかっけいこうとするあらたを止めて、

あん ……いいわ。それじゃあ、海賊島で会いましょう。

ゆづき

そして、二人は去っていった…。  
さくら…。

さくら  
ゆづき

物言いたげなゆづきに、さくらはパタパタと手を振って、別に、説明しなくていいわよ。聞く気もないし。でも。

さくら  
ゆづき  
そらぎ

手ごたえなさ過ぎて、あきてたところだったから、おかげで燃えてきたつてもんよ。…ありがとう。  
で、どうするんだ？ けいかくどおりか？

ゆづきは決心したように、うなずいた。

ゆづき

ええ、相手は海賊だもの。海の上で決着をつけましょう。

はげしい戦いを予感させるように、全員が出てくる。

さくら  
さわこ

さあ、それじゃあ、行きましょうか。  
まだ見ぬお宝を目指して。

トア

荒海を乗り越え、

ひいろ

嵐を越えて、

あらた

七つの海の果てにある、

そらぎ

あの伝説の海賊島へ。

みんな

さあ、出発だ！

## S5

### 海賊島・いかにもラスボス感のあるアヤシゲな扉の前

と、いうわけで、海賊島だ。

いろいろあったが、なんとか到着した一行は、大変つかれきっていた。

さわこ

というわけで、海賊島についたわけです。

ひいろ

いやあ、大変でしたねえ。

かほ

とおかつたですねえ。

ひいろ

嵐に大波、いろんなバケモノにおそわれたりもしました。

さわこ

みんなで戦いましたねえ。

かほ

みんな、ぶじでよかったですねえ。

さわこ

たいへんアツい、アツい冒険がくり広げられたわけですが…

ひいろ

この辺りのことは、時間の都合上、カットさせていただきます。

みんな

え！？

みんな、ガクゼンとする。

あらた

オレたちのたたかいは！？

さわ・ひい

かほ　カットです。

ちとせ

バケモノイカ！すごかったよね！

さわ・ひい・かほ　カットです。  
トア　嵐を抜けた、オレのカレーなる船さばきは？  
さわこ　そんなのあった？  
かほ　なかった、なかった。  
ひいろ　むしろ船よいで死んでたよね。  
みんな　チクシヨウ！

男子たち、こぶしを床にたたきつけ、泣く。  
男子つて、ちっちゃなことにこだわるよねえ。  
大事なのは、お宝よねえ。

そして一行は、アヤシゲな扉の前に到着したのである。

さわこ　と、いうことで、いよいよラストシーン！  
ひいろ　海賊島の宝の部屋の前にやってきたわけです！  
かほ　いかにもアヤシゲなトビラですねえ。  
さわこ　この戦いに勝利したチームが、黄金のメダルを手に入れます。  
ひいろ　ということは、伝説の海賊の宝も、私たちの手に…！  
さわ・ひい・かほ　やっちゃえ、やっちゃえー！

と、もりあがる一部海賊たちをよそに、あらたとそらぎはマジな顔で前に出てくる。

あらた　さて、それじゃあ、黄金のメダルをわたしてもらおうか。  
そらぎ　取れるものなら、取ってみな。

いよいよ、決闘の始まりだ。

さわこ　さあ、両チーム、代表選手が出てきました。  
ひいろ　まずは、伝説の海賊の孫の孫のそのまた孫の忠実なる副長、あらた！

あらたチームのみんな、歓声を送る。

かほ　そして、大海賊・黒ひげの子分のヨージンボー、そらぎ！

そらぎチームのみんな、歓声を送る。

ひいろ　実はこの二人、冒険の間に何度も戦っているのですが…  
さわこ　それもまた、カットされております！  
ひいろ　インネンの対決と思ってごらんください！

どこからともなく風が吹き、決闘の緊張感をもりあげる…。

あらた　とうとう決着をつけるときが来たようだな。  
そらぎ　そうだな。  
あらた　いくぞ…。

二人はこぶしをふり上げて…！

2人

最初はグー！ジャンケンポン！あいこでしょ！

あいこを5回くりかえす、白熱した戦い。  
だがついに、あらたが勝利をおさめる。

あらた 勝った！

そらぎチーム ああーっ！

あらたチーム、大喜び！

一方のそらぎチームは、地にくずれ落ち、くやしがる。

あらた

さあ、メダルを渡せ！

トア

くそう…しかたがない…！渡してやれ！

さくら

ああっ！そんな〜っ！

そらぎチーム、みお姫にメダルを渡して、あらたチームの方へ連れて行く。

さわこ

姫さま！

ひいろ

ご無事でしたか！

みお姫

たのしかったです！

再会を喜びあう、みお姫と海賊たち。

あんはみお姫のところに行くと、手をさし出す

あん

姫様。

みお姫は、メダルをあんに渡す。

あらた

…ねえさん。

あん

それじゃあ、伝説の海賊の宝を見せてあげるわ。

さわこ

あんたたちは、下がってなさい！

トア

くっそう…！

あん

さあ…扉よ、開きなさい！

あんが黄金のメダルを扉にセットすると、地響きのような音が聞こえ、扉がゆつくりと開き始める。

さわこ

おおっと、見てください！

ひいろ

あのいかにもアヤシゲな扉が、うなりをあげ…

かほ

ゆつくりと開いていきます…！

そしてついに扉が開ききった時、その奥にあったものは…！？

みんな

えーっ??

トア

からっぽ?

ちとせ

なんにもないじゃん。

さくら

どうなってるの？

その時、どこからともなく、アヤシゲな女が現れた。

ナゾの女

オーッホッホッホッ！その通りよ、おばかさんたち。この島に、あなたたちにあげ

みんな

だれ！？

ナゾの女

私こそ、伝説の海賊、メアリー・アン。この島の主よ。

あらた

え！？生きてたの？

そらぎ

なんさい！？

ナゾの女

女に年を聞くもんじゃないよ！

とびげり！

かほ

あとう…

ナゾの女

若さの秘訣かしら？

かほ

いえ、まだ若いので。

とびげり！

ナゾの女

つたく、最近の若いもんは、礼儀がなつてないね…。

さくら

宝がないつて、どういふことよ？

ナゾの女

あんたたちの考えてるような、お宝じゃないつてことよ。

ちとせ

山盛りの金貨とか。

ナゾの女

ない。

みお姫

ピッカピカの宝石とか。

みんな

ない。

トア

かえろ、かえろ。

と、みんなが歩き出した時、ナゾの女は合図の手をあげる。

すると島のおちこちから、ニブい音が響き渡る。

カットされたけど、みんなが必死にたどつてきた道が封鎖されたのだ。

ナゾの女

残念だけど、帰ることはできないわ。

あらた

なんでだよ！？

ナゾの女

知つてるでしょ？海賊島は、七つの海の最果ての島。夢の終わり。ここであなたた

ちの旅は終わるのよ。

ナゾの女はあんの肩をねぎらうようにたたく。

ナゾの女

よくやつてくれたわ。生きのいい若者たちを連れてきてくれて、ありがとう。

あん

はい、お母様。

あんは深々と頭を下げる。

でもその顔は、なんともうかない表情だ。

さわこ

まさか…あなた…。

ナゾの女

オーッホッホッホッ！

ひいろ 私たちを食べる気！？  
ナゾの女 食べないわよ！  
トア あれだ、若い子のエキスを吸って生きてるんだ。  
ナゾの女 吸血鬼か、私は！  
みんな おいといて。

おいといた。

ナゾの女 あなたたちには、これからこの島で暮らしてもらいます。そして、自分の道を見つけて、旅立ってもらいます。

かほ どこへ？

ナゾの女 この門の向こうへ。

かほ もんのむこう？

ナゾの女 そう：現実へ。

その言葉に、何人かがゾツとした。  
そう、ほんの：何人かが。

そらぎ そこでもボーケンできる？

ナゾの女 いいえ。

あらた 決闘は。

ナゾの女 いけません。

みお みおのこと、さらってくれる？

ナゾの女 犯罪です。

ちとせ じゃあ、何が楽しいんだよ！

楽しいことならいっぱいあります。もうバカな夢を見るのはやめて、現実を見なさい。

ナゾの女は、はじめてみんなにやさしくほほ笑んだ。

ナゾの女 その時、あなた方は本当の宝を手に入れるでしょう。

それまで、じつと話を聞いていたゆづぎが、あんの前に出てくる。

ゆづぎ

あん…。  
警告したわよね。船を降りろって。ここまで来てしまった以上、あきらめるしかないわ。

あん

あんはゆづぎの顔も見ずに言った。  
でもゆづぎが話しかかったのは、そんなことじゃない。

ゆづぎ ……これだったの？

あん 何が？

ゆづぎ 海賊をやめたのは。

…：そうよ。これを知って、私は海賊をやめた。海賊島に行かなければ、いつまでもこのままでいられると思ったから。みんなといっしょに夢を見て、楽しく遊んで生きていけると思ったから。だれもここに連れてこないですむと思っただから。でもダメ。どんなに逃げても逃げても、運命の時はやってくる。私たちは、いずれここに

来るしかないのよ。

そう言うと、あんは悲しそうにゆづきを見た。

夢の終わりに。

……。

私はね、伝説の海賊の子孫なんかじゃない。私は、あん。ただのあん。

……。

あん  
ゆづき  
あん  
ゆづき  
あん

ナゾの女、みお姫に手を差し出す。

ナゾの女

さあ、いらつしやい。

ひいろ

ダメ！

ひいろは、急いでみお姫をナゾの女から引き離す。

さわこ

私は行かない。

ナゾの女

：残念だけど、あなたたちはここを出られないわよ。：ゆつくり考えることね。

そう言うと、ナゾの女をあんは姿を消した。

## S 6

### 海賊島・いかにもフスボス感のあるアヤシゲな扉の前・その後

それからいつとき……

この話のなりゆきに、みんなはヒジョーにムカついてた。

さくら

ムカつくわ。

さわこ

ムカつく。

ひいろ

ムカつくね。

あらた

ムカつくなあ。

トア

：ねえ、ハラへらない？

そらき、トアをグープンする。

さくら

気に入らないわ。

そらき

気に入らないな。

かほ

気に入らない。

ちとせ

気に入らない！

トア

メシ食わしてくれるのかな？

そらき、トアをグープンする。

あらた

でも、もうここからは出られないんだよなあ……。

ひいろ

だったら言うこと聞くしかないのかな。

そらき

あのヘンなのいうことを？

さわこ

ムカつくけど。

すると突然、ちとせがガバツと立ち上がり、大きな声をはり上げた。

ちとせ  
やだ！

トア  
え…？

ちとせ  
やだやだやだ、つまんない！僕は、つまんないのはイヤだ！

あらた  
そんなこと言ったって…。

ちとせ  
みんなは、つまんなくてもいいの？

そう言われて、みんなはちよつと考える。

かほ  
それは…やだけど…。

トア  
そうだよなあ…。お前、おもしろそうだから、ついてきたんだもんな。

すると、そらきも立ち上がった、

そらき  
ぼくもイヤだよ。だって、ぼくにはまだ、やりたいことがいっぱいあるんだ。けっ

ちやくをつけたいやつだつているんだ。

そらきは、みんなを見まわしながら、言い続けた。

そらき  
ふねがないなら、またつくればいいよ。ここがセカイのおわりなら、またはじめればいい。あんなヤツのいいなりになって、なることないんだ。ぼくたちがいま、なにをするかは、ぼくたちがきめることなんだから。

みお姫は、あんが去った方を見ながら、ポツリとつぶやく。

みお姫  
さつきのおねえちゃん…。

ゆづぎ  
え…？

みお姫  
さびしそうだったね。

ゆづぎ  
そう見えた？

みお姫  
うん。

それを聞いたあらたは、みんなに向かって頭を下げる。

あらた  
お願いします、船長をたすけてください！オレ、べつに船長がどこに行っただっていいんです。船長がしあわせなら、それでいいんです。でも、そうじゃないなら…オレは部下として、船長をたすけなきゃいけない。でもオレ一人じゃムリだから…。だから、お願いします！

それ、いくら出す？

さくら  
さくら！

さくら  
ジョーダンよ。でも、その子たちの言う通りかもね。だまって言うこと聞くのはシヤクにさわるしさ。

みんなも何かがふっ切れたように、一人、また一人と立ち上がっていく。

さわこ  
うん、そうだよ。私たちは、楽しかった。だからやった。

ひいろ  
それはいけないことなんかじゃない。

かほ  
トア  
だつてこれは、わたしたちのものだから。  
オレたちが、自分で作る物語だから。

みんなは、開け放たれた大きな門の向こうを見つめる。

ちとせ  
ゆづき  
さくら  
あらた  
トア  
そらぎ  
さわこ  
みんな  
ひろ  
かほ  
さくら  
ゆづき  
みお姫  
みんな  
さあ行こう！  
この海賊島を抜け出して、  
新たな旅に出るために。  
決められた道なんかいららない。  
好きに遊べ！  
好きにさわげ！  
どんな夢だつて、冒険だつてかなう。  
これは、私たちの物語だから。  
たとえどれほど道をまちがえ、  
たとえどんなに、とおまわりをしたとしても、  
自分で選び、自分で歩いた道こそが、  
本当の夢へとつづく、ただ一つの道だから。  
さあ行こう。  
新しい冒険の始まりだ。

門の向こうに、あんの姿が見える。

## S7

### どこか

それは夢と現実の間――  
そのどこかで、あんとゆづきが向かい合っている。

ゆづき  
あん  
あん！  
ゆづき…。

ゆづきは固い決心を胸に秘めて…

私、決めたの。私たちは、ここを出て行く。

ゆづき  
あん  
ゆづき  
あん  
だから、いつしよに行こう。  
でも…。

ナゾの女、出てくる。

ナゾの女  
ゆづき  
ナゾの女  
ゆづき  
それでも、あなたはいつか、この島にたどり着くことになります。夢の終わりに。  
それは、避けられない運命なのです。  
それでもいい。  
…。

それでも今は、みんなと冒険の旅に出たい。たくさん冒険の先にたどり着いた未来なら、きつと本当の宝になっていると思うから。

ゆづき、笑う。

ゆづぎ  
ナゾの女  
だから私は、ここを出て行きます。  
あなた…。

ナゾの女がゆづぎに近づこうとした時、しのび寄ってきた他のみんなが、ナゾの女をハンマーでぶつたたく。

ナゾの女  
あ…！

ナゾの女、倒れる。

トア  
よし、逃げろ！

トアのかけ声と共に、歓声をあげて逃げていくみんな。  
ゆづぎも、あんに手を差し出して、

ゆづぎ  
あん  
行こう。  
うん。

そして二人も去っていく…。  
それを見届けたかのように、ナゾの女が起き上がる。

ナゾの女  
やれやれ…最近の若いもんは…。

するとそこに、出て行ったはずのあんがもどってくる。

ナゾの女  
あん  
…どうした？ お前も出て行くんじゃないのかい？

ナゾの女  
あん  
一つ…聞いてもいい？

ナゾの女  
あん  
なんだい？

ナゾの女  
あん  
そこは…いいところなの？

ナゾの女  
あん  
……。

あん  
この先の世界は。

ナゾの女は、やさしく笑う。

ナゾの女  
あん  
それはだれにも分からないわ。全てはあなた次第。

ナゾの女  
あん  
……。

決まった未来なんて、どこにもない。傷つくことも、傷つけることも、泣くことも、

泣かせることも、たくさんあって…でも…。

あん  
でも？

ナゾの女  
あん  
夢を見るより、かなえる方が楽しい。…だろ？

あんはちよつと考えてから、やがてうなづく。

あん  
うん…そうだね。

ここは世界の果て。夢の終わり。ページをめくれば、もうそこには何も無い。でもそれはね、物語が終わるってことじゃない。そこからのお話は、自分で書くしかないのよ。

ナゾの女は、はげますように、あんの肩に手をのせる。

ナゾの女  
忘れないで。あなたが歩き出しさえすれば、門を開くカギはいつだってあなたの手の中にある。

トア（声）

船が出るぞー！

ナゾの女、あんの背中を押してやる。

あん

うん、行ってきます！

あんは笑顔で走り去る。

S 8

それから…

一人立つ、さくらの姿。

さくら

そうして、私たちはまた、それぞれの旅に出ました。みんなの旅路がどんなものになるのか、それは分からないけれど、旅の途中、ときどき出会うみんなの顔は、とても楽しそうだったことをおぼえています。これから長い年月の中で、だれもが自分の旅の終わりにたどり着き、あの真っ白なページに旅立つときが来るのでしょうか。でもそれまでは、もうしばらくの間だけ、この世界の中で楽しんでいようと思いません。

みんな、出てくる。

みんな

よーし、かかってこーい！

そう、ここは海賊の町。

またしても、戦いの火蓋が切つて落とされようとしているのだった。

幕